

## 外来より



### ～小児科ミニ知識：抗生物質について～

診察のとき時々「抗生物質は入っていますか？」と聞かれることがあります。抗生物質は、それほどみなさんが知っている薬です。今回はこの薬について考えてみましょう。

さてこの薬には、どんな効果があるのでしょうか。抗生物質は、細菌を殺すための薬です。風邪のほとんどはウイルスによって起こるのです。つまり抗生物質は、風邪に直接効く薬ではありません。もちろん、鼻水を止めたい咳を止める効果もありません。細菌によって起こる病気、例えば膀胱炎、扁桃炎、肺炎、とびひ、化膿性の疾患等に効果があるのです。

ではどうして風邪の時にも使われるのでしょうか。熱がある場合には、それがウイルスによるものか細菌によるものか、初期には区別ができない場合があります。また風邪から二次的に細菌の感染が合併して肺炎等を起こすこともあるのです。ですから症状によっては、治療や予防のために抗生物質も使うこともあるのです。

抗生物質を使うことによる問題点には、どんなものがあるのでしょうか。抗生物質を飲むと下痢をするということを聞きます。細菌を殺すわけですから、人間のからだの中にある必要な細菌例えば腸内細菌も殺してしまいます。その結果下痢が起こってくるのです。1日や2日で下痢が起こることはあまりありません。その場合はむしろ風邪の症状としての下痢が起こることが多いようです。しかし継続することによって、下痢の頻度は高くなっていきます。整腸剤を併用することによって、下痢を少なくすることが出来ます。

もう一つ大きな問題点は、耐性菌です。細菌は抗生物質といつも競争しているのです。抗生物質が開発されると、細菌はそれに勝つ(耐性となる)方法を獲得していくのです。抗生物質の効かない菌が出てきて、重症な患者の治療に難渋することになるのです。抗生物質を必要以外に漫然と長期間にわたって使うことが、耐性菌を作り上げることになるのです。

抗生物質は必要以外に使う薬ではなく、赤ちゃんに多い突発性発疹症、麻疹や水痘やおたふく等のウイルス性疾患には、直接効果はないことも覚えておきましょう。

# 院長より

熊本地震本当に大変な事態です。被災者の方におかれましては、さぞ、つらい日々であろうと思います。心よりお見舞い申し上げます。

さて、女優の紗栄子さんはじめ有名人の方々が多額の寄付金やボランティア活動を実行されておられます。非常に素晴らしいことだと思います。私たちも見習うべきであると感じます。

私も先日、日本医師会や日本赤十字社や国境なき医師団などを通じていくばくかの寄付をいたしました。今後も継続していこうと考えております。今、私たちがやるべきことは、自分のできる事を、なんでもいいから実行することではないでしょうか？電話をすることでも寄付はできます。街頭に立って募金活動をする方法もあります。職場からボランティアに行く人がいれば、その人が業務から外れることでできる穴をその人に代わって埋め、業務に支障が出ないようにすることも立派な後方支援であると言えます。どのような形でもいいと思います。

皆さん今こそ自分のできる支援活動をいたしましょう。

案浦 康高

熊本

がんばれ!!

